

大阪では、MASH 大阪が CBO と地域のエイズ担当者が一堂に集まるプロフェッショナルミーティング (PM) を企画し、大阪地域の検査場面における MSM への対応の研修会を実施している。また、検査で陽性と分かった人のための支援プログラムは、NPO 法人 CHARM が戦略研究後も厚生労働省事業を受託して継続し、保健所やクリニック検査キャンペーンの医療機関と連携して、地域での陽性者支援の取り組みとしている。

3年間の地域のCBOの活動を見ると、いずれの地域でも、自治体・保健所と連携し、保健所のHIV抗体検査担当者へのMSM対応の研修の実施、そして保健所のHIV抗体検査をMSMに向けて広報する資材作成が行われている。MSM中高年では診断時のAIDS発症率が高く、受検率も低い状況にあるため、さらにHIV抗体検査の機会を増大すると共にCBOによる啓発活動を進める必要がある。

3. 保健所のHIV抗体検査と受検者におけるMSM

保健所等のHIV検査がMSMにどの程度利用されているのかについても、戦略研究で導入された保健所等のHIV検査受検者対象の5分間アンケートを改変して、8都府県11自治体の協力を得て実施された。各地域のMSM割合の推移、MSM受検者におけるCBOの活動、資材の認知の推移に焦点をあてた評価が行えた。

HIV陽性判明報告例のあった施設のMSM割合は、東京都16.2%、愛知県16.1%、大阪府13.5%で、HIV陽性判明報告例のなかった施設のおよそ2倍の割合であった。日本のエイズ発生動向は男性同性間性的接触を感染経路とする報告が大半を占めており、自発的な検査行動からHIV感染の早期発見につなげるには、受検者のMSM割合を指標としてMSMの受検を促進する検査体制にしていくことが望まれる。

また受検者がHIV陽性判明を想定した場合の受診行動には、家族や周囲の友達の支援、相談先などの社会環境が関連している一方、自分の家族に相談できる・できると思う割合はMSM受検者22.3%、SW利用MSM受検者23.2%、SW女性受検者25.9%と他の群に比べて極めて

低く、家族には相談がしにくい状況にあることが示された。検査と共に相談等の支援に関する社会環境の整備が重要といえる。

4 郵送検査受検者への対応

保健所等でのHIV検査件数は2008年の177,156件をピークに激減している。2012年の検査件数は131,235件で、2008年のピーク時から約46,000件(25.9%減)の減少となっている。保健所等でのHIV検査件数が減少傾向にある一方で、HIV郵送検査件数は2011年まで年々増加を続けていることが、HIV検査体制に関する研究班から報告されており、2012年も65,000件を超える利用となっている。郵送検査は、自宅で検査ができるため、匿名性や簡易性、時間的制限がないことなどがメリットであると考えられている一方で、HIV検査前後の対面での説明や相談、陽性であった場合の医療機関へのフォローアップがしづらい、検査キットの公的な精度管理が実施されていないといった懸念が指摘されている。日本ではMSM、セックスワーカー、若年層などの個別施策層に対するHIV検査受検の促進が課題となっているが、郵送によるHIV検査を利用した受検者や保健所等を利用した受検者の特性については明らかになっていない。

本研究班では、受検者にとって有用なHIV検査となることを目標に、保健所や公的検査機関および郵送検査によるHIV検査を利用する受検者に質問紙調査を実施し、その特性を把握した。郵送検査受検者の特徴として、保健所等および公的検査機関に比して、一人暮らしの割合や既婚者割合、初めて受検する割合、金銭を払った性経験や金銭をもらった性経験の割合などが他の検査機関の受検者に比べて高い傾向にあり、これらの受検者層が郵送検査を自発的に選んでいる傾向が伺えた。その一方で、相談場所の認知が低いことも示された。郵送検査においては対面支援が困難であることから、受検する前後、特に結果を知らせる場面での情報提供が重要となる。しかし、他の検査機関の受検者でも相談場所を知らない受検者は6割近くを占め、家族や友人に相談できない割合も半

表9 「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」における各地域のCBOとの協働研究について

地域	東北	首都圏	東海	近畿	福岡	沖縄
コミュニティセンター	ZEL	akta	rise	dista	haco	mabui
運営団体(CBO)	THCGR やろっこ	NPO・akta	Angel Life Nagoya	MASH大阪	Love Act Fukuoka/LAF	Nankr
CBO啓発計画と内容	<p>1.地域のゲイコミュニティ・ネットワーク(商業施設・メディア・インターネット・サークル等)を介した啓発活動(CBOの活動実施内容の記録) ・地域のMSMを対象に行う啓発活動(目的、実施計画、実施内容)を研究班と共有し、それらの効果を把握する調査(下記2)を連動させる 1)コミュニティセンターの活動、 2)MSM向けHIV感染予防促進のための啓発活動、 3)MSM向けHIV抗体検査受検促進のための啓発活動</p> <p>2.地域のMSMを対象とした性行動・予防行動・受検行動およびNGO活動を評価する調査(CBOの協力による調査計画と実施) ・MSMの性行動・予防行動・受検行動の動向を把握し、上記1の啓発活動による効果等を評価するために、コミュニティ内で横断調査、パネル調査を実施 1)MSM対象の横断調査参加者のリクルート(イベントパーティ、バー、サークル等への調査協力の確保、調査の周知・広報を行う) 2)横断調査からリクルートした継続調査参加者へのパネル調査(数回にわたる調査)と啓発活動を連動し、プログラム評価をする 3)調査結果をコミュニティへの還元(コミュニティペーパー、報告会等を介して調査結果を広報する)</p> <p>3.行政・保健所との協働によるMSMへのHIV感染対策の体制の構築 ・地域のゲイCBOと行政の協働体制により、MSM対象のエイズ対策の具体的施策(CBOと連携した予防啓発、早期検査・治療・支援の促進)を図る</p>					
ゲイコミュニティとの連携 * 商業施設 ゲイバー、ショップ、ハッテン場等 (2012年9月時点の報告)	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 仙台市 17/23軒 東北各県 15/18軒 ・クラブイベント ・バレーボール大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 東京 495/678軒 新宿・上野浅草・新橋・渋谷地 神奈川(SHIP)28/40軒 埼玉/千葉県 2/15軒 ・サークルや クラブイベント 約80件 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 名古屋 46/58軒 岐阜市店舗 ・クラブイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 キタ: 131/171軒 ミナミ: 44/57軒 新世界: 11/59軒 ・クラブイベント等 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 博多 65/69軒 小倉 16/16軒 ※H23年度時点 ・クラブイベント ・スポーツ大会など ・鹿児島へ資材を郵送 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 那覇・沖縄市・今帰仁村 44/44軒 離島: 4/4軒 ・クラブイベント ・スポーツ大会など
行政との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市: エイズ感染症対策推進協議会委員 ・世界エイズデー・せんだい・みやぎ共催 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所職員等エイズ 専門研修 他 東京都福祉保健局, 埼玉県保健医療部, 神奈川県保健福祉局, 横浜市健康福祉局, 千葉県健康福祉部: ・新宿区保健所:ゲイ向けエイズ・性感染症検査 ・港区保健所:MSM広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県: エイズ対策協議会 検査会イベント 世界エイズデー臨時検査広報協力 ・名古屋市: エイズ対策協議会 MSM対象検査会(NLGR、M検等) ・岐阜県 検査広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府: クリニック検査、MSM向けSTI学習会 ・大阪市: MSM向けHIV予防啓発広報誌制作 ・京都府: 若年層向けボランティア育成事業 MSM向け相談事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県、福岡市: セクシュアルヘルス懇談会 世界エイズデー福岡パネル展 エイズデー特例検査フライヤー作成 福岡県エイズ対策推進協議会 福岡市中央保健所 ・熊本県エイズ対策会議 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県: MSM向けHIV検査 キャンペーン
MSM対象調査 GCQアンケート パネル調査	<ul style="list-style-type: none"> 2011 横断調査実施 2012-2013 横断調査実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 調整 2012-2013 横断調査実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 調整 2012-2013 横断調査実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 横断調査実施 パネル調査実施 2012-2013 横断調査実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 横断調査実施 パネル調査実施 2012-2013 横断調査実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 横断調査実施 パネル調査実施 2012-2013 横断調査実施 パネル調査実施
保健所等HIV検査 受検者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市5施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京19施設、 ・神奈川7施設、 ・千葉14施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県3施設 ・名古屋市13施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府・市17 ・クリニック検査受検者 7施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市3施設 ・クリニック検査受検者 1施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県3施設

数を占めており、いずれの検査機関においても、受検者のこうした状況を踏まえた支援の対応が望まれる。

5. MSM の行動科学調査および介入評価研究

2011年度に実施した成人男性39,766人を対象としたインターネット調査では、MSMは4.6%であることを示した。2013年度に再びA社保有のモニター登録者(調査実施時点の20歳から59歳のモニター登録者数は2,074,265人)から男性31,192人、女性30,682人を抽出し、スクリーニング調査を実施したところ、MSMは4.1%で、2011年度とほぼ同様の結果を得た。また、本年度調査では、同性と性行為をする女性、金銭を払った性経験を有する男性(性産業を利用する男性)、金銭をもらった性経験を有する女性(性産業に従事する女性)等についてもスクリーニング調査によりその割合を把握することができた。これらの情報はエイズ予防指針にある個別施策層のエイズ対策を検討する上で、例えば人口規模等を推定するなどの点で有用なデータと考える。

1社だけのモニター登録者という点では、調査における代表性に課題があるが、当研究班でこれまでに行ってきた商業施設利用者を対象としたバー顧客調査やクラブイベント参加者の調査とは異なり、一般集団へのスクリーニング調査で得たMSMを対象とした行動調査を可能としている。2011年度調査では、商業施設を利用するMSMは利用しないMSMに比べて感染リスク行動や性感染症既往歴が高いことを示し、2013年度調査でも同様の結果を得ている。このことはMSMにおけるHIV感染対策には、商業施設利用者を対象とした啓発が重要であることを示唆している。

商業施設やそれらが集積する地域において、CBOは施設や利用者との関係を構築し、ボランティアスタッフと共に資材をアウトリーチする啓発活動を展開している。この取り組みは今後も継続していくことが必要と考える。

本研究班の前身の研究班では、1999年にゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたクラブイベント参加者を対象にした質問紙調査を行

い、およそ500名のMSMから回答を得た。これはMSMを対象とした日本で初めての性行動等の調査と言える。その後、これまでの間に、バー顧客への質問紙調査、携帯電話を用いたRDS(Respondent Driven Sampling)法による質問紙調査などを行い、多様なMSMの検査行動、予防行動を把握するための調査をCBOと共に開発実施してきた。この3年間の研究では、各地域のCBOを基点としたコミュニティベースの横断調査を、インターネットを介して実施し、その調査参加者に継続して間断的に行うパネル調査への参加を募る追跡調査を考案した。2011年度に横断調査からパネル調査に移行するシステムを検討し、2012年度は横断調査を6地域で実施し、4回のパネル調査を試行した。4回のパネル調査継続率は60%強と有用であることが示され、2013年度は2-3か月毎に3回のパネル調査を計画し、調査の間にCBOの啓発プログラムを挟み込んで、その有効性を評価する予定であった。しかし2013年度は、予算縮減により計画した回数のパネル調査を実施することができず、また調査参加者への謝礼も減額したことで分析に必要な参加者を得ることができなかった。しかしCBOの啓発プログラムの前後にパネル調査を行うことで、同一人からプログラム暴露の情報と行動の変化を得る手法は、CBOによる介入効果を把握する上で有用であることがわかった。特に東京、大阪などの大都市ではパネル調査参加者が一定数得られるため介入効果を評価することが比較的可能である。他の地域ではこの点を改善していくことが必要であった。

6. アジアのMSMにおけるHIV感染拡大

タイ、中国、台湾をはじめとするアジアの各地域では、MSMにおけるHIV感染が拡大している。MSMの国内移動、海外移動に伴うHIV感染への対策も今後は必要となる取り組みである。日本の人口規模のおよそ1/6の台湾では、MSMにおけるHIV/AIDS報告数が2008年まで日本とほぼ同じ推移で増加してきたが、2008年からの5年間は日本が横ばいに転じ、台湾との報告数の差は1923人少ない報告となっている。も

し、日本が台湾と同様の推移をたどると、この5年間の報告は現状よりも1923人多い報告となっているともいえる。HIV感染症の生涯医療費はおよそ1億円とも推定されており、単純計算ではあるが、この5年間に1923億円の医療費が抑えられたことになる。MSMへのHIV感染対策研究班が開始された2002年から2013年までに同性間感染対策にかけた事業費や研究費をはるかに超える金額である。

日本で男性同性間のHIV/AIDS報告が横ばいに転じた背景には、予防啓発、検査体制、医療体制などの相加的な効果が考えられる。特に当事者CBOによる男性同性愛者等への予防啓発が予防行動や検査行動を向上させ、感染者や患者の増加を抑えていることが推察される。近年のアジア地域における同性間感染の増加の背景には、同性愛者等への偏見・差別に基づく対策の遅れがあげられる。戦略研究や本研究班での当事者CBOと研究者および保健医療職者が協働した体制での研究は、MSMへの偏見・差別が強いアジア地域の参考となるものと考えられる。モンゴルでは、近年MSMの間で急速にHIV感染が拡大していることから、市川、岡らは、当研究班のCBOや研究者とモンゴル国のNGOや国立感染症病院の医師との交流により、当研究班でMSMを対象に実施してきたLiving Together計画や戦略研究での啓発手法をモデルとした啓発活動がモンゴル国に導入され、実施されている。この活動には、WHO、UNAIDS、モンゴル保健省が関心を寄せている。

日本の最近の動向では、滞日外国籍の男性同性間感染が増加していること、また本研究でも示したようにMSMの若年層で感染者が増えてきており、地方では、AIDS患者で報告される割合が40-50%を占める場合もあり、MSMを対象とした一層の取り組みが望まれている。当事者CBOによる予防啓発活動、そしてCBO参加型の調査研究により効果評価と対策の方向性を探る研究班は今後も重要と考える。

7. 自己評価

1) 達成度について

保健所等のHIV検査受検数および受検者質

問紙調査は研究2年度目に目標の6地域で実施が可能となり、CBO啓発資材や検査広報によるMSMの受検動向を把握することが可能となった。しかし、本年度は研究費の縮減により調査期間を6か月に縮小したため年間を通した評価が困難となった。

またゲイコミュニティでの横断調査後に継続調査参加者を募るパネル調査を2年度目に確立し、本年度はCBOが行う啓発活動と連動させて資材認知や行動の変化を把握する計画とし、横断調査、パネル調査の参加者を増やす予定であったが、予算縮減のため前年度より規模縮小の調査となった。

CBO等の啓発プログラムの有用性を把握する方法として、保健所受検者アンケートおよびMSM集団のパネル調査を開発した。保健所等のHIV抗体検査受検者アンケートは、大阪府・大阪市が独自に継続しており、当研究班が分析面で今後も協力する予定である。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義

宮城、首都圏、東海、近畿、愛媛、福岡、沖縄の7地域でCBOの啓発活動の企画・実施とその評価を行う研究が、研究者とCBOやゲイコミュニティとの信頼関係の下に行われ、さらに行政担当者を加えた「MSMのHIV感染策の企画、実施、評価の体制整備」は、MSMのエイズ対策を進める上で社会的意義は大きい。

MSM人口を推定し、HIV、AIDSの有病率や発生率の動向を明らかにしたことは地域、出生年代の比較を可能とした。また、保健所等のHIV検査や郵送検査の受検者を対象にした大規模な調査は戦略研究の経験に基づいて行われたが、受検者特性やHIV陽性判明に関連する要因を明らかにした研究は見当たらない。

E. 結論

I. エイズ予防のための戦略研究の効果評価と政策還元

2006-2010年まで実施された戦略研究の成果および戦略研究後に継続された事業や研究の成果について報告した。

1) 首都圏では、MSMの検査促進に協力のあった保健所を、阪神圏ではクリニックを定点と

し、MSMが利用する商業施設やWebサイトへの啓発介入により HIV 検査受検促進を図った。HIV 検査受検者アンケートでは、戦略研究独自の啓発資材認知が MSM 受検者において特異的に上昇した。首都圏の定点保健所では、受検者に占める MSM 割合および男性受検者の HIV 陽性割合が上昇し、また2010年のエイズ患者報告数は推計値より16.1%減少した。阪神圏では定点クリニックの受検者に占める MSM 割合が上昇し、陽性割合も5%と高かった。しかし、2010年のエイズ患者報告数は推計値を超え、受け入れキャパシティの大きい保健所等での受検体制を構築できなかったことが影響したと考える。

- 2) 首都圏で2ヵ月ごとに4種の介入資材を広報した「エイズ発症予防『できる!』キャンペーン」は、バー顧客調査でその資材を1つ以上認知した割合が新宿地域 71.9%、新橋地域 67.7%、横浜地域 62.0%、上野浅草地域 59.3%であり、訴求性があった。介入資材認知群は非認知群に比して、生涯および過去1年間のHIV検査受検割合が有意に高く、また過去6ヶ月間のHIVやエイズに関する対話経験、周囲のHIV感染者の存在認識の割合が資材認知に関連していた。
- 3) エイズ予防のための戦略研究で開発され施行されたプログラムは、一部は厚生労働省の委託事業として、また当研究班での継続研究として、首都圏、阪神圏において継続され、また他の地域にも導入された。

II. 地域のMSMにおけるHIV感染対策の企画、実施に関する研究

7地域のCBOは、商業施設、メディア、Webなどのネットワークを介して、それぞれの地域のMSMに向けた様々な取り組みを継続し、新たな取り組みを試行した。

東北(仙台)、首都圏、東海(名古屋)、大阪、福岡、沖縄、愛媛の7地域のCBOは、地域の殆どの商業施設と関係を構築した。CBOは、商業施設やメディア、Webなどのネットワークを介して、HIV感染とAIDS発症を抑えるために、予防やHIV検査受検を啓発する資材等のアウ

トリーチを行った。またCBOは、地域のMSMに向けたエイズ対策を促進するため、CBOと自治体・保健所等が連携する体制づくりを進めた。7地域で、自治体・保健所のHIV抗体検査担当者へのMSM対応の研修会の実施、保健所のHIV抗体検査をMSMに向けて広報する資材を作成し、商業施設への配布を行った。

III. MSMにおける行動科学調査および介入評価研究

1. 成人男性に占めるMSM割合と行動に関する研究

1) 全国の成人男性を対象とした郵送法による質問紙調査

成人男性におけるMSMの割合は2009年調査では2.0%、2012年調査では2.7%であった。

2) 全国の成人男性・成人女性を対象としたインターネットによる質問紙調査

A 社保有のモニター登録者を住民基本台帳を基に47都道府県と年齢階級で層化した20歳から59歳についてMSMのスクリーニング調査を実施した。2011年度は男性40,120人から有効回答39,766人がありMSM割合は4.6%(n=1,844、95%CI: 4.4%-4.8%)であった。2013年度は同様に成人男性31,192人を抽出し、MSMは4.1%でほぼ同値であった。ゲイ向け商業施設を利用したことがあるMSMは2011年調査で34.6%、2013年調査で35.9%とほぼ同値であった。ゲイ向け商業施設利用者は、性感染症既往率や感染リスク行動が高く(2011年調査)、商業施設利用者を対象とした啓発介入の重要性が示唆された。

2. コミュニティベースの携帯電話による性の健康に関する質問紙調査(GCQアンケート)

MSM対象の横断調査後に継続パネル調査を実施し、間断的に行うパネル調査とCBOの啓発活動を連動させて効果を評価することが可能となった。2012年は、横断調査で3,027件の回答を得、うち1,803名が追跡パネル調査参加に同意し、4回にわたるパネル調査に650名(64.5%)の回答があった。2013年は2012年を超える横断調査とパネル調査の参加者を得たが、予算縮減により協力謝礼とパネル調査回数を減らしたためCBOの介入と連動した評価ができなかった。横断調査に続いて実施する

追跡パネル調査は資材認知や行動の変化を把握する手法として有用である一方、参加者を拡大する工夫が必要である。

3. MSMにおけるHIV/STD感染の動向に関する研究

1) 感染症発生動向調査からみたMSMにおけるHIV/AIDSを含む性感染症の発生動向

MSMにおけるB型肝炎は7例(2006年)～19例(2008年)の範囲で推移していたが、2011年23例、2012年30例と増加した。また梅毒は52(2003年)～71例(2005年)の範囲で推移していたが、2008年132例に急増し、2012年は277例と増加傾向にあった。他の性感染症では大きな変化は見られなかった。

2) MSMにおけるHIV感染者、AIDS患者の推定有病率と推定発生率の動向

地域ブロック別の成人男性に占めるMSM割合と国勢調査に基づく人口からMSM人口を推定し、エイズ発生動向調査にあるMSMのHIV感染者、AIDS患者報告数からMSM人口10万対の推定有病率、推定発生率を算出した。HIV有病率は東京都が最も高く1,438.8、次いで近畿555.6、東海384.8、九州258.8で、AIDS有病率は東京都が最も高く329.7、次いで東海161.2、近畿139.4、九州97.4であった。

HIV感染者発生率は上昇傾向で、最も上昇していたのは九州、次いで東海、中国・四国、近畿であった。AIDS患者発生率は、2011年に東海、九州地方が東京や近畿と同程度となっていた。

3) 日本国籍MSMにおける出生年代別HIV/AIDSの動向分析

20-59歳のMSMについて、出生年代別にMSM推定人口10万対のHIV感染者数(HIV発生率)およびAIDS患者数(AIDS発生率)を求め年次動向を明らかにした。出生年代別AIDS発生率の年次推移は、1950年代生まれを除く年代は増加傾向であった。出生年代別HIV発生率は、1980年代生まれの若い年齢層でも著しい増加が示された。

4. 保健所等のHIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

保健所等の受検者への質問紙調査を6地域83施設で実施し、受検件数の動向、MSMをはじめとする受検者層の特性を把握した。

(1)2012年(1-12月)、2013年(1月-9月)の受検者中のMSM割合は、宮城県内10.8%、12.3%、東京都内14.3%、15.4%、南新宿検査・相談室26.5%、26.9%、神奈川県10.7%、12.2%、

千葉県7.7%、6.0%、愛知県13.9%、15.6%、大阪府内11.0%、13.0%、chot CAST なんば15.0%、17.3%、福岡県内14.0%、14.7%、沖縄県内22.2%、19.9%であった。郵送検査では5.8%、5.8%であった。

(2)いずれの地域もMSM向けCBO資材の認知は、MSM受検者に特異的に高く、地域によってはMSM割合とCBO資材認知が連動していた。

(3)HIV陽性判明報告のある保健所の受検者特性として、MSMであること、居住地が他地域であることが挙げられた。HIV/AIDSの多くをMSMが占める現状から、HIV感染の早期発見にはこれらを指標として検査環境を改善していく必要がある。

(4)HIV陽性判明を想定した場合の受診行動には、家族や周囲の友達の支援、相談先などの社会環境の整備が関連していた。一方でMSMや性産業従事女性は家族への相談がしにくいと感じており、相談先などの社会環境の整備が重要と考えられた。

(5)郵送検査(1社)の受検者ではMSMの割合は6%程度であるが陽性の結果はすべて男性であった。郵送検査では、一人暮らしや既婚者の割合、初受検者割合、金銭を払った性経験や金銭をもらった性経験の割合などが保健所等の検査機関の受検者に比べて高く、これらの受検者層が郵送検査を自発的に選んでいる傾向が伺えた。他の検査機関も含め受検者への支援情報の提供が必要と思われる。

5. ロジックモデルを用いたCBOによるHIV啓発活動のプロセス評価

CBOがプログラム対象についてどのように理解してプログラムを運営しているのかを記述し、スタッフが個々に持っていたアウトリーチプログラムに関する理解を可視化し、モデルに基づいた評価指標を提示した。

IV. 自治体におけるMSMのHIV感染対策構築に関する研究

当事者参加型の体制に地域のエイズ担当者を加え、保健所等のHIV検査体制とCBOの広報活動の連動、受検者動向調査やMSMの行動調査等の分析結果を共有する体制を構築した。

F. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)
なし

G. 研究発表

(2011-2013 年の研究班関連の論文、国際学会、国内学会の発表)

(成果物等)

- 1) 市川誠一：HIV 抗体検査を受ける人を対象としたアンケート結果ダイジェスト、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」発行、1-24、平成 26 年 3 月
- 2) 市川誠一：首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究(研究成果報告概要版)、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業・研究成果等普及啓発事業発行、1-18、平成 23 年 11 月

(論文等)

- 1) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM(Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 2013, 60 巻(10 号), 639-650
- 2) Harutaka Katano, Yoshiyuki Yokomaku, Hitomi Fukumoto, Takayuki Kanno, Tomoyuki Nakayama, Akitomo Shingae, Wataru Sugiura, Seiichi Ichikawa, and Akira Yasuoka: Seroprevalence of Kaposi's Sarcoma-Associated Herpesvirus Among Men Who Have Sex With Men in Japan, Journal of Medical Virology, 2013, 85, 1046-1052
- 3) 福山由美, 市川誠一, 大林由美子, 杉浦 互, 横幕能行: 愛知県におけるエイズ診療拠点病院初診患者の受診遅れと検査遅れに関連する要因, 日本エイズ学会誌, 2013, 15(2), 119-127

- 4) 堀希好, 金子典代, 市川誠一: 養護教諭が生徒から受ける同性への性的指向の相談の実態と対応に関する研究, 思春期学, 2013, 31(1), 167-174
- 5) Jane Koerner, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji, Toshio Machi, Daisuke Goto and Tetsuro Onitsuka: Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan, Sexual Health, 9(4), 328-333, 2012
- 6) 金子典代, 塩野徳史, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 市川誠一: 日本人成人男性における生涯での HIV 検査受検経験と関連要因, 日本エイズ学会誌, 14(2), 99-105, 2012
- 7) 市川誠一: 男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査普及の取り組み-「エイズ予防のための戦略研究」後のエイズ発生動向の考察, 病原微生物検出情報, 33(9), 231-232, 2012
- 8) 金子典代, 大森佐知子, 辻宏幸, 鬼塚哲郎, 市川誠一, ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 感染予防行動のステージと関連要因: 大阪市内での商業施設利用者への質問紙調査から, 日本公衆衛生雑誌, 58(7), 501-514, 2011
- 9) Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Jane Koerner, Satoshi Shiono, Akitomo Shingae, and Toshihiro Ito: Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan, Sexual Health, 8(1), 123-124, 2011
- 10) Jane Koerner, Seiichi Ichikawa: The Epidemiology of HIV/AIDS and Gay Men's Community-Based Responses in Japan, Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific, Published online, <http://intersections.anu.edu.au/issue26/koerner-ichikawa.htm>, Issue 26, Aug. 2011
- 11) Jane Koerner, Seiichi Ichikawa: Regional

Feature: Testing, treatment and prevention among gay and other men who have sex with men in Japan - an update, HIV Australia, 9(3), 40-43, 2011

- 12) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: 日本成人男性における HIV および AIDS 感染拡大の状況-MSM (Men who have sex with men) と MSM 以外の男性との比較 -, 厚生 の 指 標, 58(13), 12-18, 2011

(国際学会)

- 1) D. Dorjgotov, S. Oka, S. Ichikawa, E. Gombo, D. Jagdagsuren, S. Shiono, N. Galsanjamts: Effect of the activities of non-governmental organizations (CBOs) on men who have sex with men (MSM) in Mongolia, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 2) N. Galsanjamts, M. Dorjgotov, E. Gombo, D. Jagdagsuren, S. Shiono, N. Kaneko, S. Oka, S. Ichikawa: Development & implementation of the project "We are Living Under the Same Sky", the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 3) Daisuke Goto, Satoshi Shiono, Toshio Machi, Tetsuro Onitsuka, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Effectiveness of preventive intervention related to condom use among MSM in the Kinki area, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 4) Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Yuki Tada: Trends in the incidence of HIV and AIDS by decade of birth among MSM of Japanese nationality, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 5) Seiichi Ichikawa: HIV Prevention Strategy among Men who have Sex with Men (MSM) in Japan, - Current situation of HIV infection among MSM and prevention activities of CBOs -, The 11th Taipei International Conference on HIV/AIDS, Taipei, September 2013
- 6) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The Strategic Research "We can do it! 2010" campaign to promote testing behavior among MSM in the Tokyo region, The 16th International AIDS Conference, Washington DC, U.S.A., July, 2012
- 7) Noriyo Kaneko: Strategic Research to promote HIV testing among MSM (Men who have sex with men) in the wider Tokyo and Osaka regions, The 12th Asia-Oceania Congress of Sexology, Shimane, Japan, 2012
- 8) Akitomo Shingae, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Makoto Utsumi: HIV Testing among MSM Attending Community-based HIV Testing Events in Nagoya, Japan from 2008 to 2010, The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), Busan, Korea, 2011
- 9) Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Jane Koerner, Yukio Cho, Junko Araki, Yuzuru Ikushima, Seiichi Ichikawa, Shinichi Oka, Satoshi Kimura: Results of the 2008 to 2010 RDS Mobile Phone Survey to Evaluate the Strategic Research HIV Testing Promotion Campaign among MSM in Tokyo, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011
- 10) Kei Shibata, Kota Iwahashi, Yuzuru Ikushima, Seiichi Ichikawa, Shinichi Oka, Satoshi Kimura: HIV Map Internet portal site: Part of the Strategic Research to promote HIV Testing among MSM in Tokyo, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011
- 11) Tetsuro Onitsuka, Sohei Yamada, Hiroyuki Tsuji, Daisuke Goto, Toshio Machi, Takaki Toda, Hirokazu Kimura, Kumiko Nakamura, Seiichi Ichikawa: Analysis of Paper Media Contents Targeting Approach to Outreach

MSM in the Osaka Region, The 10th ICAAP,
Busan, Korea, 2011

(国内学会)

- 1) 市川誠一：バー調査から/検査機関の調査から見えること～性行動, 検査行動, 予防行動, 中高年が検査にいかない理由, シンポジウム3(社会)「MSMの感染予防とその課題～多角的な視点から考える」, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013年11月20日
- 2) 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊弘, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013年11月
- 3) 牧園裕也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013年11月
- 4) 佐久間久弘, 荒木順子, 岩橋恒太, 柴田恵, 大島岳, 木南拓也, 阿部甚兵, 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: コミュニティセンターaktaを基点としたMSM向け性風俗店との連携を通じた予防行動促進キャンペーンの構成, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013年11月
- 5) 高野操, 中澤よう子, 金子典代, 塩野徳史, 生島嗣, 荒木順子, 岩橋恒太, 市川誠一, 岡慎一, 木村哲: 首都圏保健所におけるHIV抗体検査受検者に対する結果通知率と陽性者の医療機関受信確認率, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013年11月
- 6) 町登志雄, 後藤大輔, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 塩野徳史, 市川誠一: MSM向けHIV検査普及プログラム「クリニック検査1000円キャンペーン」広報についての考察, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013年11月
- 7) 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一, 岳中美江, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 小島洋子, 森治代: 診療所を窓口としたMSM向けHIV検査普及プログラムの改良に向けた検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013年11月
- 8) 森祐子, 蒔田寛子, 清瀧裕子, 鬼頭拡美, 市川誠一, 杉浦互, 横幕能行: 保健所HIV抗体検査でのカウンセラーの担う役割を検討する～相談利用の促進・阻害要因に関する質的研究～, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013年11月
- 9) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄: MSM向け予防啓発大規模イベントの継続が大阪のMSMコミュニティに与えた効果, 第53回日本社会医学学会総会, 高槻市, 2012
- 10) 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: 関西地域のゲイ・バイセクシュアル男性のHIV感染予防行動のステージ分布の経年的変化, 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 11) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: 保健所HIV抗体検査受検者における初受検者と再受検者の特性, 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 12) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: MSM(Men who have Sex with Men)コミュニティにおけるゲイ向け商業施設利用者と非利用者の比較, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 13) 佐々木由理, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 萬田和志: 郵送HIV抗体検査受検者と保健所検査受検者の特性の比較, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 14) 今橋真弓, 泉泰輔, 今村淳治, 松岡和弘, 金子典代, 市川誠一, 高折晃史, 内海眞, 横幕能行, 直江知樹, 杉浦瓦, 岩谷靖雅: HIV-1感染伝播・病勢に対するAPOBEC3B遺伝子型の影響に関する解析, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 15) 塩野徳史, 新山賢, 市川誠一: 愛媛県在住

- MSM(Men who have sex with men)における居住地別 HaaT えひめの活動認知と予防行動-Haat えひめ WEB アンケート 2011 から-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 16) 柴田恵, 岩橋恒太, 生島嗣, 荒木順子, 高野操, 市川誠一: 首都圏居住 MSM を対象とした web サイト「HIV マップ」における抗体検査への準備性に注目した情報提供手法の開発-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 17) 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 大島岳, 柴田恵, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM を対象とするエイズ対策拠点としてのコミュニティセンターakta の機能の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 18) 町登志雄, 木南拓也, 藤浦裕二, 牧園祐也, 塩野徳史, 市川誠一: ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたアウトリーチ-アウトリーチ・マニュアル作成を通じて-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 19) 後藤大輔, 川畑拓也, 岳中美江, 塩野徳史, 萬田和志, 町登志雄, 中村文昭, 鬼塚哲郎, 市川誠一: ゲイ向けクラブイベントにおける郵送検査キットを用いた検査普及プログラムの試行と課題, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 20) 生島嗣, 荒木順子, 岩橋恒太, 柴田恵, 佐久間久弘, 大島岳, 木南拓也, 高野操, 塩野徳史, 市川誠一: HIV 検査提供機関, NPO, 研究機関による地域連携会議の効果に関する考察, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 21) 岩橋恒太, 荒木順子, 生島嗣, 塩野徳史, 佐久間久弘, 高野操, 大島岳, 木南拓也, 星野慎二, 柴田恵, 桜井啓介, 阿部甚兵, 市川誠一: 首都圏居住の MSM を対象とする検査普及プロジェクト「ヤロー」の構築と検討-「MSM 首都圏グループ」の取り組み, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 22) 大島岳, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 岩橋恒太, 市川誠一: コミュニティセンターakta における対面情報提供機能の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 23) 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 中村文昭, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 塩野徳史, 岳中美江, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 診療所を窓口とした個別施策層向け HIV 検査普及プログラムの確立に向けた検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 24) 塩野徳史, 市川誠一, 川畑拓也, 大里和久, 古林敬一, 岩佐厚, 亀岡博, 田端運久, 高田昌彦, 菅野展史: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン(2011 年度)-第 3 報 - 受検者の特性, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012
- 25) 後藤大輔, 岳中美江, 鬼塚哲郎, 古林敬一, 亀岡博, 大里和久, 岩佐厚, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン(2011 年度)-第 2 報-検査普及啓発資材について, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012
- 26) 牧園祐也, 鷺山和幸, 山本政弘, 北村紀代子, 塩野徳史: MSM 対象の HIV/STI 迅速検査会実施と CBO によるターゲットアプローチの考察, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 27) 辻麻里子, 阪木淳子, 曾我真千恵, 米山朋子, 石坂昌子, 長与由紀子, 松尾聖麿, 緒方積, 長浦由紀, 財津和弘, 友枝沙紀, 藪内文明, 泉真理子, 久米信也, 茂志穂, 牧園祐也, 野田雅美, 斉藤和義, 山本政弘: 九州ブロックにおける自治体と中核拠点病院等が協働した HIV 検査相談研修会実施のための体制整備を目的とする講師養成会議と研修会実施について, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 28) 山岸拓也, 尾本由美子, 川畑拓也, 白井千香, 高野つる代, 多田有希, 中島一敏, 灘岡陽子, 堀成美, 宮原愛理, 持田嘉之, 山内昭則, 中瀬克己: 地方自治体における感染症発生動向調査の業務を支援する性感染症発生動向結

- 果活用ガイドラインについて, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012
- 29) 松高由佳, 小谷野淳子, 小楠真澄, 橋本充代, 本間隆之他: MSM におけるセーファーセックスを妨げる認知のタイプに関する検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 30) 田中友麻, 本間隆之: 地域住民を対象として行われる介入研究のプログラム評価, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 31) 前島ゆき, 本間隆之: HTLV-1 抗体検査に関するエビデンスと実施体制の考察 HIV の経験から学ぶ, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 32) 日高庸晴, 本間隆之: インターネットによる MSM の行動疫学調査-経年変化分析の結果-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 33) 牧園祐也, 請田貴史, 川本大輔, 北村紀代子, 狭間隆司, 橋口卓, 山本政弘, 井上緑: 福岡地域における男性同性間の HIV 感染対策とその推進 CBO「Love Act Fukuoka(LAF)」の啓発活動の展開とコミュニティセンターhacoの有用性について, 第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 34) 片野春隆, 横幕能行, 菅野隆行, 福本瞳, 中山智之, 新ヶ江章友, 杉浦互, 市川誠一, 安岡彰: 日本人 MSM におけるカポジ肉腫関連ヘルペスウイルス (KSHV/HHV8) 抗体保有率について, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 35) 新ヶ江章友, 塩野徳史, 金子典代, 牧園祐也, 請田貴史, 川本大輔, 北村紀代子, 辻潤一, 橋口卓, 狭間隆司, 山本政弘, 市川誠一: 福岡のゲイ商業施設利用者を対象とした HIV/AIDS をめぐる啓発活動の効果評価, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 36) 塩野徳史, 新ヶ江章友, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 生島嗣, 鬼塚哲郎: ゲイ向け商業施設利用者対象の質問紙調査による地域別予防啓発事業の評価に関する研究, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 37) Jane Koerner, 市川誠一, 金子典代, 塩野徳史: 滞日外国籍 MSM (Men who have Sex with Men) の健康および HIV 関連ニーズに関する調査, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 38) 柴田恵, 岩崎恒太, 張由紀夫, 荒木順子, 高野操, 生島嗣, 市川誠一: 首都圏居住 MSM を対象とした web サイト「HIV マップ」における HIV 抗体検査情報提供手法の開発-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 39) 生島嗣, 荒木順子, 佐藤未光, 高野操, 中澤よう子, 星野慎二, 岩橋恒太, 張由紀夫, 市川誠一, 野口雅美, 滝田由紀子, 御子柴朋子, 新屋敷房代: 東京周辺の検査従事者にむけた研修会実施とその影響についての考察-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 40) 岩橋恒太, 高野操, 塩野徳史, 柴田恵, 生島嗣, 張由紀夫, 荒木順子, 砂川秀樹, 市川誠一: 首都圏居住 MSM に向けた HIV 抗体検査促進のためのキャンペーン「できる!」の構成と効果-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 41) 高野操, 塩野徳史, 石塚直樹, 金子典代, 市川誠一, 岡慎一, 木村哲: 首都圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの結果報告-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 42) 鬼塚哲郎, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 山田創平, 塩野徳史, 市川誠一: 大阪の野外啓発大規模イベント「PLuS+」とその評価-エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 43) 岳中美江, 辻宏幸, 川畑拓也, 有馬和代, 古林敬一, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一: エイズの予防と共生をテーマにした野外イベント PLuS+における MSM を対象とした HIV 迅速検

- 査会の実施について—エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 44) 塩野徳史，高野操，木村哲，岡慎一，市川誠一，金子典代，コーナ・ジェーン，鬼塚哲郎，川畑拓也，辻宏幸，後藤大輔，岳中美江：阪神圏における医療機関、保健所などの検査機関における受検者動向と介入評価に関する研究（2009 年～2010 年）—エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 45) 川畑拓也，辻宏幸，後藤大輔，町登志雄，内田優，鬼塚哲郎，小島洋子，森治代，高野操，塩野徳史，田畑運久，古林敬一，岩佐厚，高田昌彦，菅野展史，亀岡博，大里和久，市川誠一：対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策—エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 46) 大野まどか，岳中美江，柏木瑛信，白野倫徳，伊達直弘，野坂祐子，松浦基夫，矢島嵩，青木理恵子，生島嗣，市川誠一：地域における新 HIV 陽性者対象のプログラム実践について—エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 47) 井上洋士，高久陽介，矢島嵩，戸ヶ里泰典，山口達，市川誠一：オーストラリアにおける HIV 陽性者 QOL 調査プロジェクト HIV Futures の現状と課題、及び日本でのフィージビリティについて，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 48) 吉澤繁行，塩野徳史，新ヶ江章友，金子典代，コーナ・ジェーン，市川誠一，石田敏彦，藤浦裕二，真野新也，内海眞：名古屋の無料 HIV 抗体検査会を併設した野外イベント NLGR 来場者における来場経験別 HIV 抗体検査受検経験率とコンドーム常用率，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 49) 中村久美子，木村博和，荒木順子，柴田恵，塩野徳史，市川誠一：ゲイ向けクラブイベント利用者質問紙調査による東京の加入プログラムの効果評価に関する研究，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 50) 金子典代，岩橋恒太，塩野徳史，Koerner Jane，生島嗣，荒木順子，市川誠一：RDS 法を用いた携帯電話調査による首都圏での啓発プログラムの評価—エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 51) 荒木順子，岩橋恒太，張由紀夫，砂川秀樹，柴田恵，高野操，星野慎二，塩野徳史，生島嗣，市川誠一：ゲイコミュニティ及び行政機関に向けた、首都圏における広報資材の大規模アウトリーチの構成と実績—エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ，第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会，東京，2011
- 52) 川畑拓也，辻宏幸，後藤大輔，町登志雄，内田優，鬼塚哲郎，小島洋子，森治代，高野操，塩野徳史，田端運久，古林敬一，岩佐厚，高田昌彦，菅野展史，亀岡博，大里和久，市川誠一：対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策、平成 23 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部ウイルス部会研究会、2011
- 53) 川畑拓也，辻宏幸，後藤大輔，町登志雄，内田優，鬼塚哲郎，小島洋子，森治代，高野操，塩野徳史，田端運久，古林敬一，岩佐厚，高田昌彦，菅野展史，亀岡博，大里和久，市川誠一：対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策、第 1 回 AIDS 文化フォーラム in 京都、京都、2011

II. 分担研究報告

東北地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

分担研究者：伊藤俊広（国立病院機構 仙台医療センター）

研究協力者：太田貴、高橋幸二（やろっこ）、小浜耕治（東北 HIV コミュニケーションズ）、佐藤功、塚本琢也、鈴木智子、武藤 愛、中村 恵、佐々木晃子、伊藤ひとみ（国立病院機構 仙台医療センター）、塩野徳史、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

平成 23（2011）年度～25（2013）年度の 3 年間、仙台市繁華街のドロップイン施設（community center ZEL：平成 22 年 3 月開設）が活動拠点となり、東北地域の MSM における HIV 感染拡大抑制のための企画立案・実施・評価研究がなされた。平成 22 年度の終り（2011. 3. 11）に東日本大震災が発生し、本研究はその復興期の初期 3 年と重なる。平成 23 年度は震災による影響でゲイコミュニティにおけるイベントの中止、ゲイビーチの喪失、商業施設の減少、コンドーム配布数減少（4, 250 個→1, 950 個）等が見られ、アウトリーチ活動に制限が生じた。しかし、ZEL 来館者は会館時間を延長することにより増加、GCQ アンケートによれば HIV 抗体検査の過去 1 年間の受検率が 32%と最高値を呈した。平成 24 年度は復興需要に合わせ仙台市への人口流入が生じ、HIV 感染拡大が懸念された。ZEL 来館者は 1, 332 名（H24. 12 月）と前年度同時期の 91%にとどまり、新規来館者数も 59%と減少した。情報提供のための ZEL 新規企画：「HIV 陽性者と語ろう」は、毎回 HIV 陽性者の参加があり、陽性者と話す機会の少ない MSM にとってニーズを満たす企画となった。他県（岩手/盛岡市）へも啓発範囲を拡げ、HIV 即日検査会の MSM 向け告知資材（フライヤー）を同市商業施設に配布できた。さらに定期的コンドーム配布に加えハッテン場での配布も開始した。保健所検査受検者を対象にした質問紙調査やインターネット横断調査・追跡パネル調査（GCQ アンケート）により仙台市の MSM 特性、広報資材の認知程度が明らかとなり、MSM の HIV 抗体検査の過去 1 年間の受検率が最高（35%）となっていること、コンドーム常用率が 30～55%と低く特に友達やセフレで使用割合が低くなることが解った。震災から 3 年目の平成 25 年度は、仙台市への人口流入が依然として続いており、HIV 感染拡大が懸念されるもののその兆候はみられていない。ZEL の周知を考慮したフリーペーパーや、コンドーム使用を呼びかけるポスター・カードの作成配布、種々のイベント・バレーボール大会などを介して啓発活動が行われ、平成 24 年度と同様の保健所検査受検者を対象とした質問紙調査や GCQ アンケートによれば、仙台市保健所検査受検者における MSM の割合が漸増しているだけでなく、仙台市 HIV 即日検査会においても MSM の割合が著増しており、コミュニティセンターを中心とした啓発活動の有用性が高まった。東北地域の高い「いきなり AIDS」率は以前から指摘されているが、平成 23～25 年度の 3 年間で東北において報告された新規 HIV 感染者は 87 人（累計数 408 人→495 人）、「いきなり AIDS」率は 40%を越えている。この間、各県では中核拠点病院の整備が進むとともに HIV 抗体検査の算定要件が改訂され、HIV 診療の 2 極化の是正と抗体受検数増加が期待された。幸運なことに感染者の爆発的な増加のきざしはないが、AIDS 発症率を低下させるためには性感染症（梅毒、B 型肝炎、クラミジア等）を意識して検査アプローチを図るだけでなく、あらゆる機会をとらえて抗体検査を実

施していく必要がある。また、感染拡大を抑制していくには抗体検査の実施機会を増やし早期診断を促し早期に治療をおこなうことにより2次感染を抑える必要がある。MSMを対象とした啓発活動はさらに重要性を増している。

A. 研究目的

HIV感染症の拡大を抑止するためにはMSMに対する積極的なアプローチが必要である。効果的なHIV感染予防対策のため、MSMを対象に種々の企画を立案・実施し、さらにその評価を的確に行うための体制整備に関して研究を行う。平成23～25年度の3年間、東北地域における研究について分担した。

B. 研究方法

「仙台医療センター」、平成5年よりHIVに関わる活動をしているNPO「東北HIVコミュニケーションズ(THC)」、ゲイコミュニティ向けのHIV啓発チーム「やろっこ」の三者を中心として、行政、医療、福祉、コミュニティ等と協働して東北地域における男性同性間のHIV感染対策(下記1～4の事項)について、介入、企画実施、調査・研究を行なった。特に3.のゲイコミュニティへの啓発活動として、community center ZELの運営、啓発資料の作成・配布、HIVを身近に感じるためのイベントの開催、ゲイコミュニティを対象としたアンケート調査を行った。また、保健所のHIV検査受検者を対象とした質問紙調査を行い、検査受検者の特徴や差異を把握した。

1. 医療者への積極的なHIV検査の勧め
2. 仙台医療センターのHIV感染者における重複性感染症(STD: sexually transmitted disease)の解析
3. ゲイコミュニティへの啓発活動
4. MSMにおける行動科学調査及び介入評価研究

C. 研究結果

東北ブロックにおけるHIV感染者・AIDS患者の累積数は平成25年9月時点で495名と報

告され、3年間で87名増加した(図1)。

仙台医療センターの受診者の内訳(H25.12月末まで)をみると(図2)、感染経路別頻度に変化はみられず、東北においてもMSM対象の介入研究の重要性は変わらない。

図1

東北県別エイズ/HIV感染者累積数推移
(非血友病): 総計495人(H25.9月)

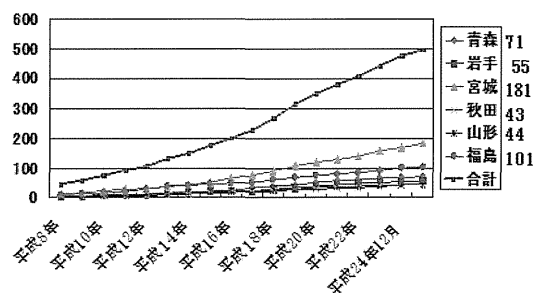
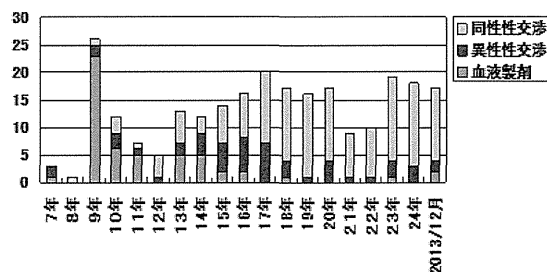


図2

仙台医療センター新患者数推移
総計252人(血液53、同性148、異性51、女性23)
H25.12月



1. 医療者への積極的なHIV検査の勧め

HIV感染症はSTDであることから種々のSTDの診断をHIV抗体検査の機会ととらえ検査件数の増加を促し、早期診断に結び付けることが必要である。

以下に記す種々の研修会・会議を通して医療従事者に対して、改定内容を周知すること

により積極的な HIV 検査の必要性について情報提供するとともに、行政とも連携し抗体迅速検査も実践した（開催時期、参加者数は省略：各年度報告参照）。

1) ブロック拠点・中核拠点・拠点病院連携（医師・歯科医師・看護師・薬剤師対象）

東北エイズ/HIV 看護研修、東北エイズ歯科診療協議会・連絡会議、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議、東北エイズ/HIV 拠点病院等薬剤師連絡会議、東北エイズ臨床カンファレンス、東北 HIV ネットワーク会議、宮城県歯科医師会 HIV 研修、東北エイズ中核拠点病院歯科連絡会議、HIV/AIDS 臨床検討会、宮城県 HIV/AIDS 学術講演会

2) 心理・MSW 連携

東北エイズ・HIV 拠点病院等心理・福祉職連絡会議、HIV 感染者の挙児希望にかかるカウンセリング体制整備会議

3) 行政連携

HIV 迅速検査会（仙台市主催）、仙台市エイズ・性感染症対策推進協議会（仙台市主催）、仙台医療センター健康まつり即日検査会

4) 介護福祉連携

AIDS/HIV 感染症出張セミナー、H25 年度 HIV 感染者・エイズ患者の在宅医療、介護環境整備事業実地研修

5) 啓発・教育

岩手の高校生、大学生を対象に講義、院内新人オリエンテーション、山形病院附属看護学校講義

6) その他（別主催研修/会議出席、講演など）

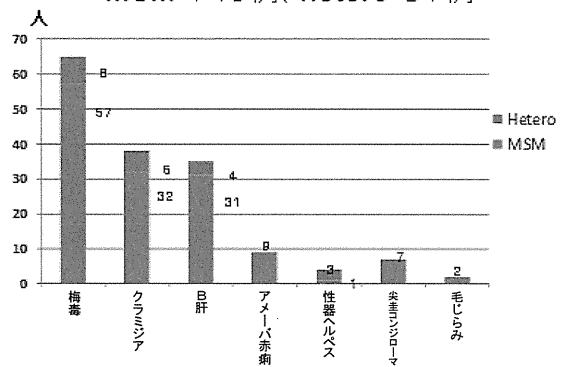
ACC 看護研修、ACC/ブロック拠点病院看護管理者会議、ACC/ブロック拠点病院実務担当者フォローアップ研修、ACC/ブロック拠点病院実務担当者会議、全国中核拠点病院連絡調整

員会議、2013 AIDS 文化フォーラム in 横浜、HIV/AIDS ブロック拠点病院薬剤師連絡会、第 51 回抗 HIV 薬服薬指導のための研修会、第 23 回日本医療薬学会、etc.

2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複 STD の解析

重複 STD の解析（図 3）では、MSM における STD 重複感染率（特に梅毒、クラミジア、B 型肝炎）が非常に高い。本調査がカルテベースの後ろ向き調査であることを考えると、実際の重複感染率は、さらに高値を呈するものと思われる。

図 3 HIV/STD 重複感染（2013. 12 月）
MSM 148 例、hetero 51 例



3. ゲイコミュニティへの啓発活動

MSM を対象とした community center ZEL（以下、ZEL）は、2010 年 3 月 20 日に仙台の繁華街である国分町に開設され、仙台で MSM を対象に HIV の情報を届けるボランティアグループ「やろっこ」が運営を担っている。仙台を中心とするゲイコミュニティだけでなく地方に住む MSM に対しても HIV に関する情報提供を行ってきた。


平成 23 年度 1,896 名、24 年度 1,681 名、25 年度は 12 月末現在で 1,422 名の来場者があった。24 年度の同期間:12 月末（1,332 名）と比べ 107% と増加している。25 年度の新規来館者数は 12 月末現在 107 名で、こちらも 24 年度の同期間（81 名）と比べ 132% と増加している。25 年度は、ZEL の周知のため、イラ

スト展など集客力のある企画を行ったことにより、来場者総数、新規来場者数が増加したと考えられる。24年度以降、ZELでは、HIVに関連した冊子やコンドームを配布することに加え、様々なイベント等を通してHIVに関する情報提供を行った。震災後、宮城県、特に仙台市では、復興需要から流入人口が増加していることから、25年度は転入者を対象にZELの周知とHIVの情報提供を行う「仙台デビュー」を年4回実施し、のべ33名の参加があった(図4,5)。

啓発資材の配布としては、24年度に引き続き、25年度も仙台市エイズ即日検査会のMSM向け広報資材(ポスターとカード)をガイバーなど、MSM向けの商業施設に配布し、HIV検査の啓発を行った(図6)。

図4

community center ZELのプログラム



- 仙台デビュー
新規来館者獲得のための友達づくりイベント
対象: 仙台で新生活を始めるMSM、ネット利用層・コミュニティ非利用層のMSM
年4回実施(4/27 12名、7/13 7名、10/12 8名、1/25予定)
- R-35 35歳からのGAY LIFE
中高年層の来館促進と中高年層のセクシャルヘルス向上を目的としたイベント
対象: 35歳以上の中高年ゲイ男性
年2回実施(5/18 11名、2月予定)
- HIV陽性者と語ろう
HIV陽性者の話を聞くイベント。HIV陽性者の現状等の情報提供を行う。
対象: HIV/AIDSに関心のある人、HIV陽性者が身の回りにいない人など
年2回実施(8/10 10名)
- その他
新規来館者獲得のためのイラスト展、作品展などを実施(5月、8月、9月、12月)

図5

community center ZEL 年間活動と来場者数

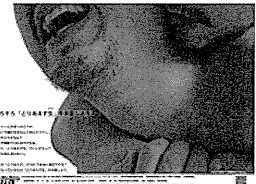
月日	イベント等	人数	月日	イベント等	人数
4/27	仙台デビュー	12	9/21	クラブイベント(アウトリーチ)	55
4/本	フリーペーパー vol.17発行		9/22-30	ゲッ割れ展 RETURNS	62
5/4	バレー大会(アウトリーチ)	150	9/30	HIV検査担当者研修	15
5/4	クラブイベント(アウトリーチ)	85	10/12	仙台デビュー秋	8
5/18	R-35 35歳からのGAY LIFE	11	10/25	バレー大会(アウトリーチ)	150
5/21-6/11	♂めんたいこ♂イラスト展	75	10/本	フリーペーパー vol.18発行	
6/1	仙台市エイズ即日検査会	20/71	11/30	Living Together in SENDAI	57
7/13	仙台デビュー夏	7	12/2-17	SUVイラスト展	
7/本	フリーペーパー vol.18発行		12/7	仙台市エイズ即日検査会	
7/本	コンドーム使用ポスター配布		1/25	仙台デビュー冬	
8/9-27	ゲッ割れ展	112	4/本	フリーペーパー vol.20発行	
8/30	Living Together in SENDAI	67	7/25	R-35 35歳からのGAY LIFE	
8/30	HIV陽性者と語ろう	10	3/20	ZEL活動報告会	

図6

コンドーム使用を呼びかけるポスター・カードの作成・配布

そろそろ「とりあえず生」を卒業しよう。

その場の雰囲気や相手に流されてコンドームを使わない「生」を選択しているMSMへ、コンドーム使用を呼びかけるメッセージを掲載したポスター。
【作成数】ポスターA3版 40部
カードA6版 1,000部



【配布時期】ポスター 7月下旬～配布開始 カード 10月下旬～配布開始
【配布先】

東北地域のMSM向け商業施設(31都府)、クラブイベント、バレー大会
全国のcommunity center等

*community center ZELフリーペーパーvol.18(7月下旬発行、部数1,200部)でも同じ内容の特集記事を掲載。

仙台市のHIV検査については、ZELが平成22年の開館以来定期的に発行しているフリーペーパー(25年度は年4回発行)にも情報を掲載し、HIV検査の受検促進をはかってきた。

保健所HIV検査受検者に対するアンケート調査によれば、仙台市のHIV抗体検査受検者に占めるMSMの割合は、通常検査、即日検査会とも増加傾向にある(表1,2)。

表1. 仙台市HIV抗体検査の受検者に占めるMSMの割合

2008	2009	2010	2011	2012
4.5%	5.0%	5.8%	7.5%	10.1%

表2. 仙台市エイズ即日検査会の受検者に占めるMSMの割合

2010 12月	2011 12月	2012 6月	2012 12月	2013 6月
10%	15%	9%	19%	28%

また、25年度は新たに、岩手県の保健所で実施されているHIV検査のMSM向け広報資材(ポスターとカード)を作成し、盛岡市内のMSM向け商業施設に配布。盛岡市保健所のHIV検査広報資材の配布にも協力し(図7)、仙台市内のガイバー・ハッテン場への定期的なコンドーム配布に加え、秋田市内のガイバー1軒でもコンドーム配布を開始し、4月から12月までの9ヶ月間でガイバーとハッテン場の

計 16 軒で、3,900 個を配布した（図 8）。

平成 25 年度はコンドームの配布に加え、コンドームの使用を促すための資材（ポスターとカード）を作成、7 月末より東北全域の MSM 向け商業施設計 32 店舗に配布した。

図 7 HIV抗体検査受検促進のための MSM向け資材作成・配布

- 仙台市HIV検査会(6/1および12/7)
カード500～700部/1回 ポスター30～50部/1回
【配布時期】
1回目:5月～配布開始(6/1検査会告知)
2回目:9月～配布開始(12/7検査会告知)
【配布先】
仙台市内のMSM向け商業施設(14～15軒)
クラブイベント パレー大会
仙台市内の保健所 等
- 岩手県の保健所検査
カード500部 ポスター30部
【配布時期】10月～配布開始
【配布先】
岩手 MSM向け商業施設(5軒)
community center ZEL



図 8

コンドーム・アウトリーチ

- 仙台市内のMSM向け商業施設17店舗中15軒への定期的なアウトリーチ
- 秋田県内のMSM向け商業施設1店舗への郵送
- クラブイベント
(年2～3回 5/4、9/21)



- パレー大会でのアウトリーチ(年2回5/4、10/26)

4. MSM における行動科学調査及び介入評価研究

ゲイコミュニティに対するアンケート調査として、クラブイベントおよびパレーボール大会と連携した web アンケート「コミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査-GCQ アンケート」(以下、GCQ アンケート)を平成 25 年 5 月に実施し、161 件の有効回答を得た(全国の同時期のアンケートの東北分回答者を含めると 182 件の有効回答)。GCQ アンケートでは、HIV 検査の過去 1 年間の受検率が 29.1%と平成 24 年度の 35.3%より減少した(表 3)。

表 3. 過去 1 年間の HIV 抗体検査受検率の推移

2009	2010	2011	2012	2013
29.1%	23.3%	29.9%	35.3%	29.1%

年代別にみると、25 歳～39 歳の年代では、30%以上が過去 1 年間に HIV 検査を受検しているが、24 歳以下の若年層が 26.1%、40 歳以上の中老年が 19.6%と低くなっている(表 4)。

表 4. 年代別にみた過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検率

24 歳以下	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40 歳以上
26.1%	41.0%	31.8%	31.0%	19.6%

コンドームの常用率については、友達やセクフレ相手では 2012 年より使用割合が高くなったものの、その他では 2012 年度よりも使用割合が低くなった(表 5)。

表 5. コンドームの常用率(過去 6 ヶ月)

セックスの相手	2012	2013
彼氏や恋人相手	48.9%	27.5%
友達やセクフレ相手	30.9%	55.3%
その場限りの相手	54.5%	35.3%

D. 考察

仙台市の HIV 抗体検査受検者に占める MSM の割合の増加は、MSM 向けに行ってきた検査広報資材の作成・配布が成果を上げてきているものと考えられる。

しかしながら、40 歳以上で過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検経験が低くなっている。東北地域では「いきなりエイズ」の割合が高く(動向調査によれば平成 25 年は 9 月の時点ですでに 47%台の値を呈している)、中でも中高年での割合が高くなっている。こうした現状を考えると、例年同様、種々の職種における研修会・研究活動を活発化し、HIV 感染症について意識を高め HIV 抗体検査実施件数を増やすとともに感染予防の啓発をすすめていく必

要があり、特に中高年の MSM に向けた HIV 検査の受検促進の取り組みが必要と考えられる。

また、アンケートの結果を見ると、コンドームの使用率が低くなっている。平成 25 年度に行ったコンドーム使用を呼びかける資材の作成・配布の効果についてはまだ検証できていないが、今後もコンドーム使用を広める取り組みを継続的に行っていく必要がある。

E. 結語

東北地域のゲイコミュニティへ向けた啓発（企画、実施、評価）の体制作りが ZEL を中心とした活動により進みつつあり、保健所受検者の中で MSM の占める割合が増加してきている。コミュニティを中心とした啓発活動の結果と考えられる。今後も東北地域の MSM との接触機会を増やし活動範囲を広げ、HIV 感染拡大に対する予防啓発活動を積極的に進めていく必要がある。協力可能な NGO と連携を強め、MSM におけるゲイコミュニティの理解を得つつ、より効果的なプログラムを開発・提供し、彼らの行動変容が可能になるようにしてゆく必要がある。そのためには戦略的に行政等の機関への提言を行い、より広い連携体制を継続的に構築してゆくことが今後も求められる。

F. 発表論文等

(○印は当研究班に関連した発表論文等)

(論文発表)

1. ○Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Jane Koerner, Satoshi Shiono, Akitomo Shingae, Toshihiro Ito: Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan: Sexual Health 8(1): 123-124, 2011

(学会発表)

1. 伊藤俊広：HIV 感染症の見つけ方—インフ

ルエンザ様症状や悪性リンパ腫等に潜む HIV を見逃さないために— (シンポジウム 32 免疫機能低下時の感染管理), 第 23 回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013

2. ○金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊弘, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM 向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
3. 佐藤麻希, 山本善彦, 阿部憲介, 水沼周市, 小山田光孝, 伊藤俊広: 災害時に対応した抗 HIV 薬供給と服薬支援策の検討—第 2 報—震災・被災 HIV 患者アンケート調査から考える未来への備え—, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
4. ○太田貴, 高橋幸二, 伊藤俊広, 塩野徳史: 東北地方の MSM を対象とした HIV 抗体検査の受検促進のための取り組み, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
5. ○牧園裕也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
6. 重見麗, 服部純子, 蜂谷敦子, 瀧永博之, 渡邊大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南留美, 吉田繁, 森治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 千葉仁志, 伊藤俊広, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 松田昌和, 林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田昇, 高田清式, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互: 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本

- 市, 2013
7. 阿部憲介, 佐藤麻希, 小山田光孝, 塚本琢也, 伊藤ひとみ, 佐藤功, 伊藤俊広: 薬剤性腎機能障害により cART 変更となった一症例—薬剤変更のトリガーとしての腎障害—, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 8. 山本善彦, 佐藤功, 伊藤俊広: 仙台医療センターにおける HIV 感染患者の合併慢性感染症の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 9. 須貝恵, 吉田緑, センテノ田村恵子, 鈴木智子, 辻典子, 井内亜紀子, 濱本京子, 田邊嘉也, 伊藤俊広: 拠点病院診療案内からみる拠点病院の現状, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 10. 伊藤俊広: HIV 感染症の見つけ方—インフルエンザ様症状や悪性リンパ腫等に潜む HIV を見逃さないために— (シンポジウム 32 免疫機能低下時の感染管理), 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 11. 佐藤麻希, 山本善彦, 阿部憲介, 水沼周市, 諏江裕, 伊藤俊広: 災害時に対応した抗 HIV 薬供給と服薬支援策の検討—東北ブロック中核拠点病院・拠点病院薬剤師間のさらなるネットワーク構築の第一歩—, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 12. 阿部憲介, 佐藤麻希, 佐藤功, 諏江裕, 伊藤俊広: 当院における TDF 関連高 CK 血症の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 13. 服部純子, 瀧永博之, 渡邊大, 長島真美, 貞升健志, 林田庸総, 近藤真規子, 南留美, 吉田繁, 森治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 千葉仁志, 佐藤典宏, 伊藤俊広, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 伊部史朗, 松田昌和, 林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田昇, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互: 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 14. 服部純子, 椎野禎一郎, 瀧永博之, 林田庸総, 吉田繁, 千葉仁志, 小池隆夫, 佐々木悟, 伊藤俊広, 内田和江, 原孝, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 近藤真規子, 長島真美, 貞升健志, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 加藤真吾, 藤井毅, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 伊部史朗, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 渡辺香奈子, 渡邊大, 白阪琢磨, 小島洋子, 森治代, 中桐逸博, 藤井輝久, 高田昇, 木村昭郎, 南留美, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互: 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 15. 椎野禎一郎, 服部純子, 瀧永博之, 吉田繁, 伊藤俊広, 上田敦久, 近藤真規子, 貞升健志, 藤井毅, 横幕能行, 上田幹夫, 田邊嘉也, 渡邊大, 森治代, 藤井輝久, 南留美, 健山正男, 杉浦互: 国内感染者集団の大規模塩基配列解析 2: Subtype B の動向と微小系統群の同定, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 16. 菊池嘉, 遠藤知之, 宮城島拓人, 伊藤俊広, 中村仁美, 田邊嘉也, 上田幹夫, 横幕能行, 渡邊大, 藤井輝久, 南留美, 健山正男: 多施設共同疫学調査における HAART の有効率 2010, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 17. 伊藤俊広, 山本善彦, 塚本琢也, 佐藤功: 初診時エイズ発症本善 HIV 感染症例 (いきなりエイズ) に関する検討, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 18. 山口泰, 仁木孝行, 伊藤俊広, 山本善彦, 佐